

# I 調査結果の概要

## 1 漁業・養殖業生産量

平成26年の我が国の漁業・養殖業の生産量は476万5,353 tで、前年に比べ8,342 t (0.2%) 減少した。

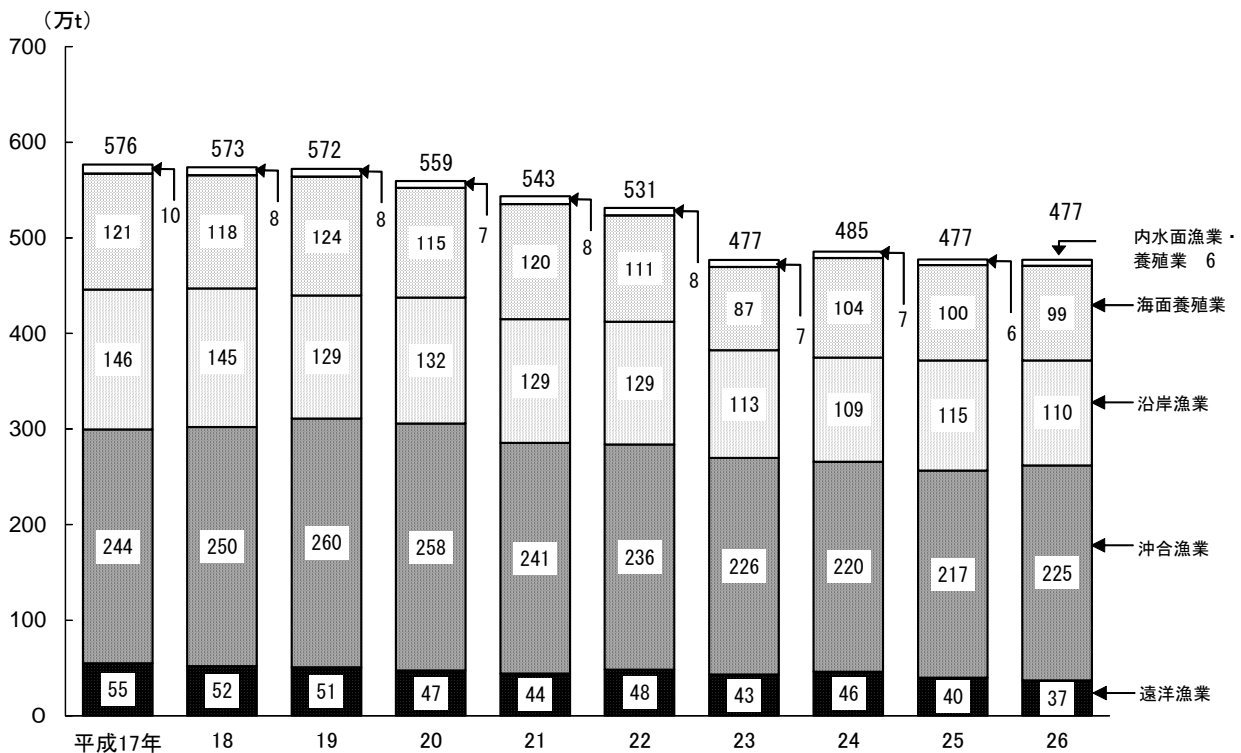
このうち、海面漁業の漁獲量は371万3,240 tで、前年に比べ2,227 t (0.1%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は36万8,785 tで、前年に比べ2万6,982 t (6.8%) 減少、沖合漁業は224万6,251 tで、前年に比べ7万7,125 t (3.6%) 増加、沿岸漁業は109万8,203 tで、前年に比べ5万2,371 t (4.6%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は98万7,639 tで、前年に比べ9,458 t (0.9%) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は6万4,474 tで、前年に比べ3,343 t (5.5%) 増加した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ）。

## (1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は371万3,240 tで、前年に比べ2,227 t (0.1%) 減少した。

東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は11万4,031 tで、前年に比べて608 t (0.5%) 増加、宮城県の漁獲量は17万7,428 tであり、前年に比べて7,628 t (4.1%) 減少した。

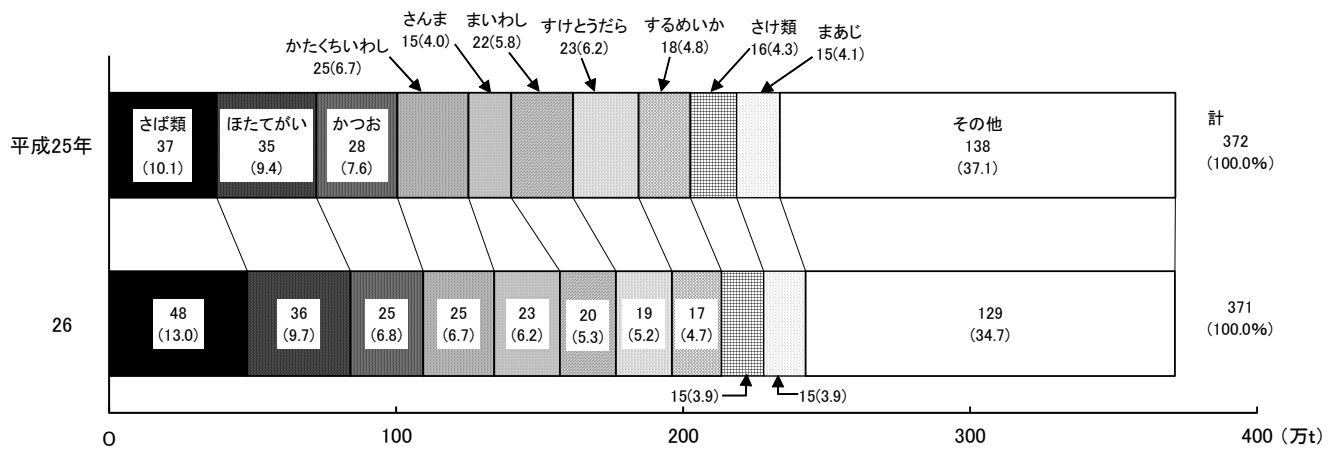
また、福島県の漁獲量は5万9,790 tであり、さんま棒受網漁業等での漁獲量の増加や、沿岸・沖合域での試験操業の漁業種類の拡大等から、前年と比べ1万4,542 t (32.1%) 増加した。

## ア 主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、さば類、さんま、ほたてがい、こんぶ類、ぶり類であり、減少した主な魚種は、すけとうだら、かつお、ほっけ、まいわし、うるめいわしであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が13.0%、ほたてがいが9.7%、かつおが6.8%、かたくちいわしが6.7%、さんまが6.2%、まいわしが5.3%、すけとうだらが5.2%、するめいかが4.7%、さけ類が3.9%、まあじが3.9%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



## (ア) さば類

漁獲量は48万1,783 tで、前年に比べ10万6,829 t (28.5%) 増加した。

これは、福岡県、静岡県等で減少したものの、茨城県、鳥取県等で増加したためである。

## (イ) ほたてがい

漁獲量は35万8,982 tで、前年に比べ1万1,441 t (3.3%) 増加した。

これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で増加したためである。

## (ウ) かつお

漁獲量は25万3,027 tで、前年に比べ2万8,708 t (10.2%) 減少した。

これは、東京都等で増加したものの、高知県、宮崎県等で減少したためである。

- (エ) かたくちいわし  
 漁獲量は24万8,069 tで、前年に比べ642 t (0.3%)増加した。  
 これは、千葉県、宮城県等で減少したものの、宮崎県、長崎県等で増加したためである。
- (オ) さんま  
 漁獲量は22万8,647 tで、前年に比べ7万8,794 t (52.6%)増加した。  
 これは、北海道等で増加したためである。
- (カ) まいわし  
 漁獲量は19万5,726 tで、前年に比べ1万9,278 t (9.0%)減少した。  
 これは、三重県、北海道等で増加したものの、島根県、石川県等で減少したためである。
- (キ) すけとうだら  
 漁獲量は19万4,920 tで、前年に比べ3万4,657 t (15.1%)減少した。  
 これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で減少したためである。
- (ク) するめいか  
 漁獲量は17万2,688 tで、前年に比べ7,401 t (4.1%)減少した。  
 これは、北海道等で減少したためである。
- (ケ) さけ類  
 漁獲量は14万6,641 tで、前年に比べて1万4,261 t (8.9%)減少した。  
 これは、北海道等で減少したためである。
- (コ) まあじ  
 漁獲量は14万5,767 tで、前年に比べて5,117 t (3.4%)減少した。  
 これは、島根県、鳥取県等で増加したものの、福岡県、長崎県等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

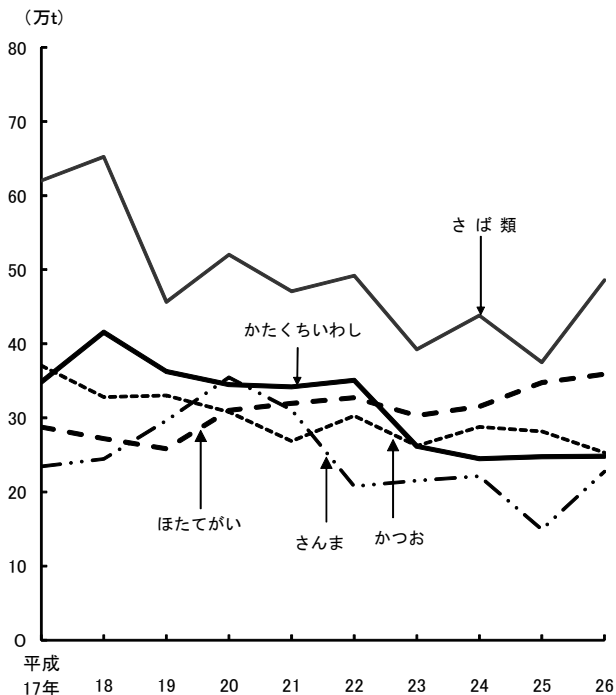
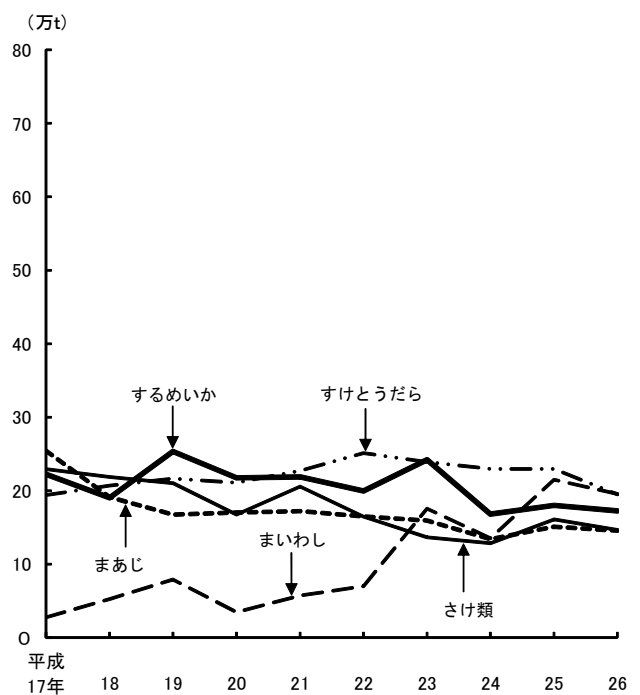


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



## (2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は98万7,639 tで、前年に比べ9,458 t (0.9%) 減少した。

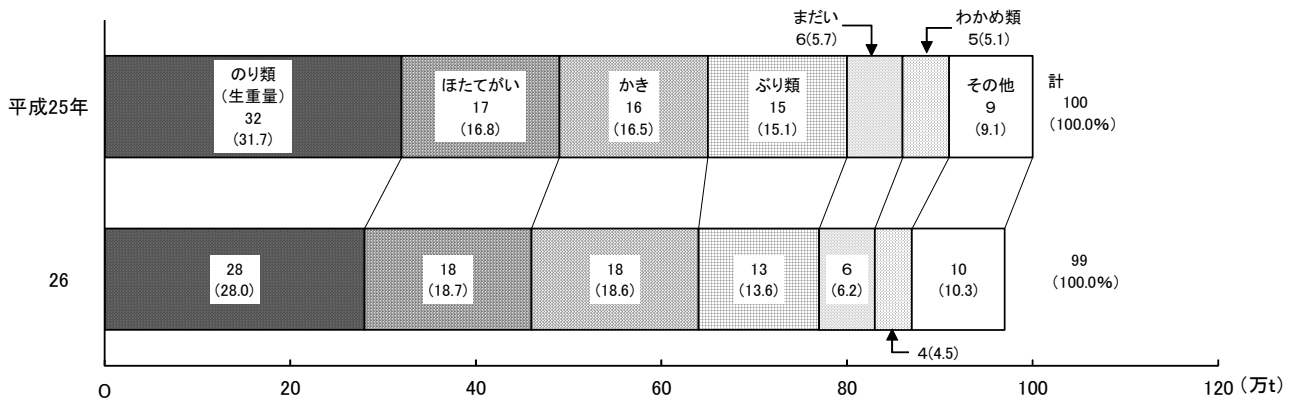
これは、のり類、わかめ類等の収穫量が減少したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万2,042 t、宮城県の収穫量は7万3,785 tであり、前年に比べてそれぞれ847 t (2.7%)、1万2,032 t (19.5%) 増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、かき類、ほたてがい、まだい等であり、減少した主な魚種は、のり類 (生重量)、ぶり類、わかめ類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が28.0%、ほたてがい18.7%、かき類が18.6%、ぶり類が13.6%、まだいが6.2%、わかめ類が4.5%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



## ア 魚類

収穫量は23万7,964 tで、前年に比べ5,706 t (2.3%) 減少した。

## (ア) ぶり類

収穫量は13万4,608 tで、前年に比べ1万5,779 t (10.5%) 減少した。

これは、鹿児島県で生産調整したこと等により減少したためである。

## (イ) まだい

収穫量は6万1,702 tで、前年に比べ4,841 t (8.5%) 増加した。

これは、愛媛県で魚種転換等により増加したためである。

## (ウ) ぎんざけ

収穫量は1万2,802 tで、前年に比べ587 t (4.8%) 増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

## イ 貝類

収穫量は36万8,714 tで、前年に比べ3万6,274 t (10.9%) 増加した。

## (ア) ほたてがい

収穫量は18万4,588 tで、前年に比べ1万6,774 t (10.0%) 増加した。

これは、青森県で高水温による大量のへい死があった前年に比べて増加したためである。

(イ) かき類

収穫量は18万3,685 tで、前年に比べ1万9,546 t (11.9%)増加した。

これは、宮城県で東日本大震災後に育成したものが出荷されたこと等により増加したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

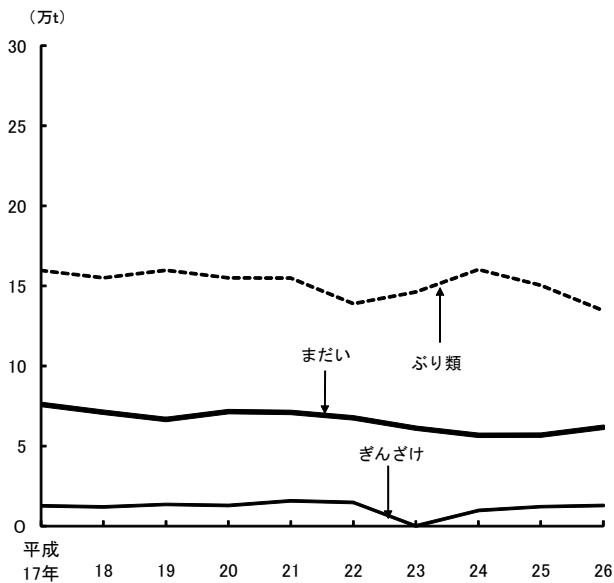
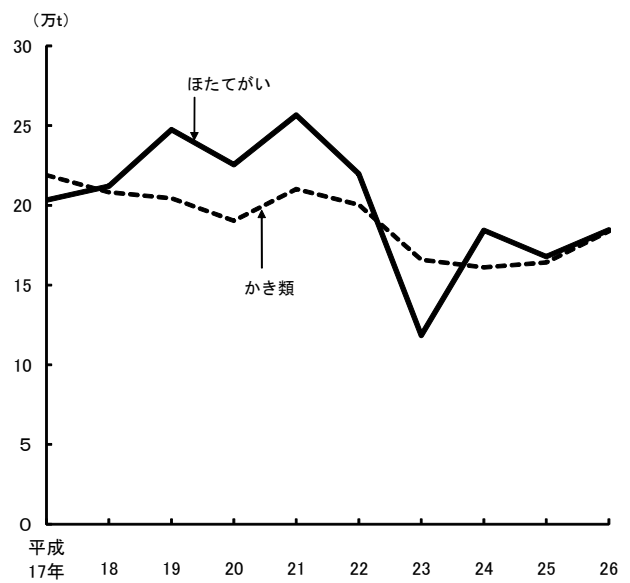


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は37万3,909 tで、前年に比べ4万4,457 t (10.6%)減少した。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は27万6,129 tで、前年に比べ4万99 t (12.7%)減少した。

これは、佐賀県、熊本県等で病害等により減少したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は4万4,716 tで、前年に比べ5,898 t (11.7%)減少した。

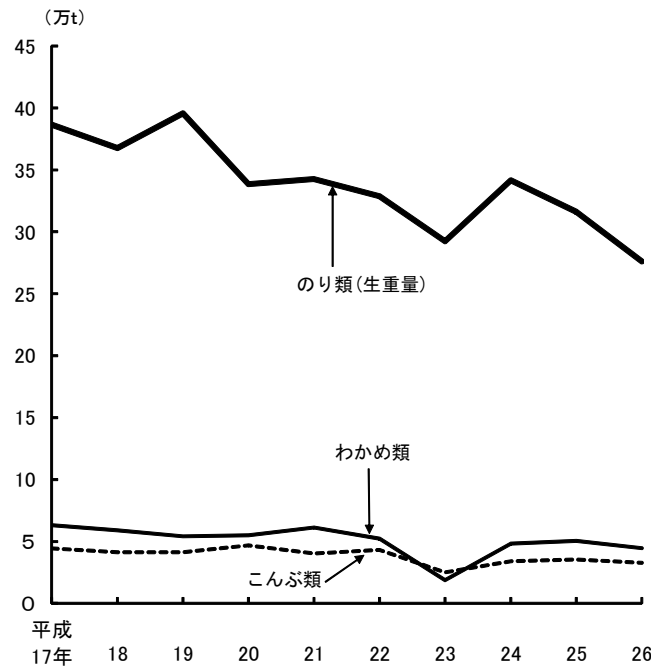
これは、宮城県及び岩手県で低水温による生育遅れ等により減少したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は3万2,897 tで、前年に比べ2,513 t (7.1%)減少した。

これは、岩手県等で減少したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



### (3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要112河川及び24湖沼）の漁獲量は3万603 tで、前年に比べ32 t（0.1%）減少した。

#### ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は1万5,081 tで、前年に比べ1,832 t（10.8%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万5,522 tで、前年に比べ1,799 t（13.1%）増加した。

#### イ 主要魚種別漁獲量

##### (ア) さけ類

漁獲量は1万212 tで、前年に比べ1,622 t（13.7%）減少した。

これは、北海道でさけ類の遡上<sup>そじょう</sup>が減少したためである。

##### (イ) しじみ

漁獲量は9,804 tで、前年に比べ1,350 t（16.0%）増加した。

これは、島根県で資源管理により資源が回復してきたこと等により増加したためである。

##### (ウ) あゆ

漁獲量は2,395 tで、前年に比べ63 t（2.7%）増加した。

これは、茨城県で稚魚の遡上<sup>そじょう</sup>が順調であったこと等により増加したためである。

##### (エ) わかさぎ

漁獲量は1,242 tで、前年に比べ86 t（7.4%）増加した。

これは、青森県等で増加したためである。

##### (オ) しらうお

漁獲量は706 tで、前年に比べ74 t（11.7%）増加した。

これは、青森県等で増加したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

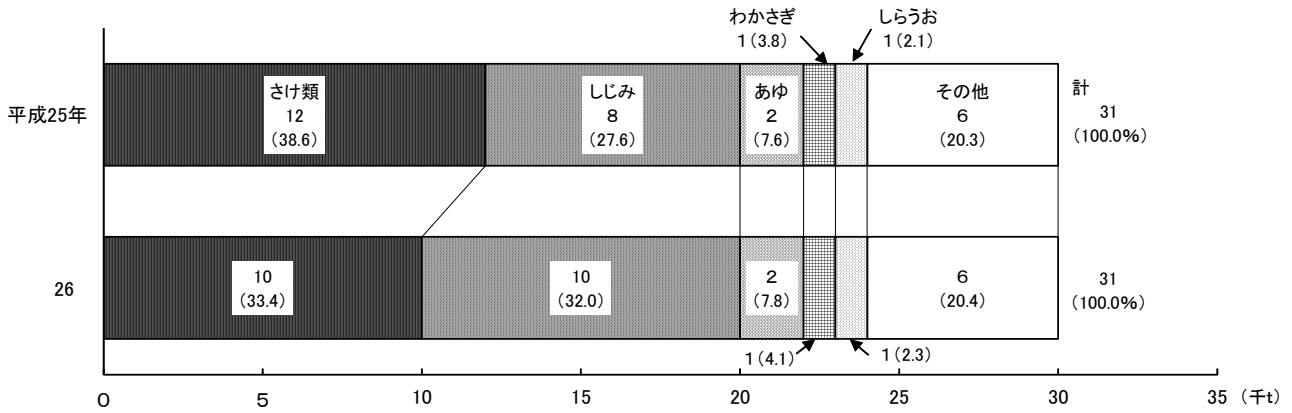
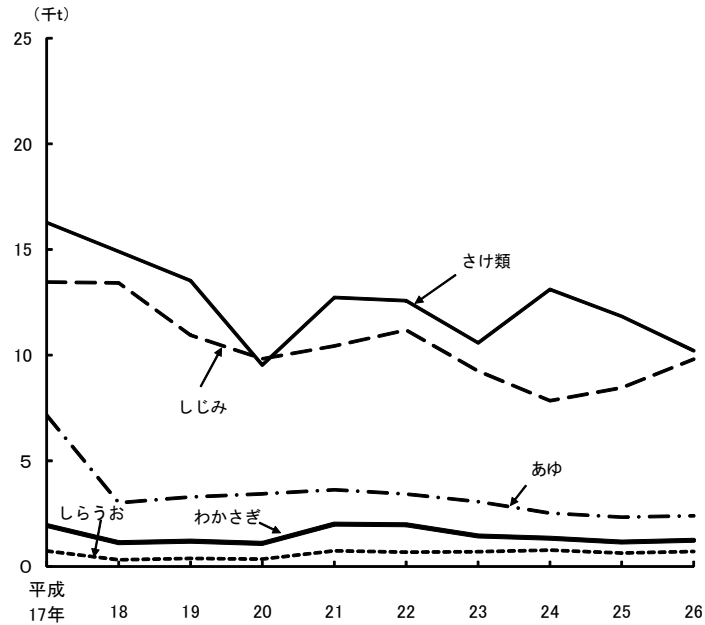


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万3,871 tで、前年に比べ3,375 t (11.1%)増加した。

ア うなぎ

収獲量は1万7,627 tで、前年に比べ3,423 t (24.1%)増加した。

これは、愛知県、鹿児島県等で池入れ量が増加したためである。

イ あゆ

収獲量は5,163 tで、前年に比べ116 t (2.2%)減少した。

ウ にじます



収獲量は4,786 tで、前年に比べ176 t (3.5%) 減少した。

エ こい

収獲量は3,273 tで、前年に比べ254 t (8.4%) 増加した。

図 11 内水面養殖業主要魚種別収獲量

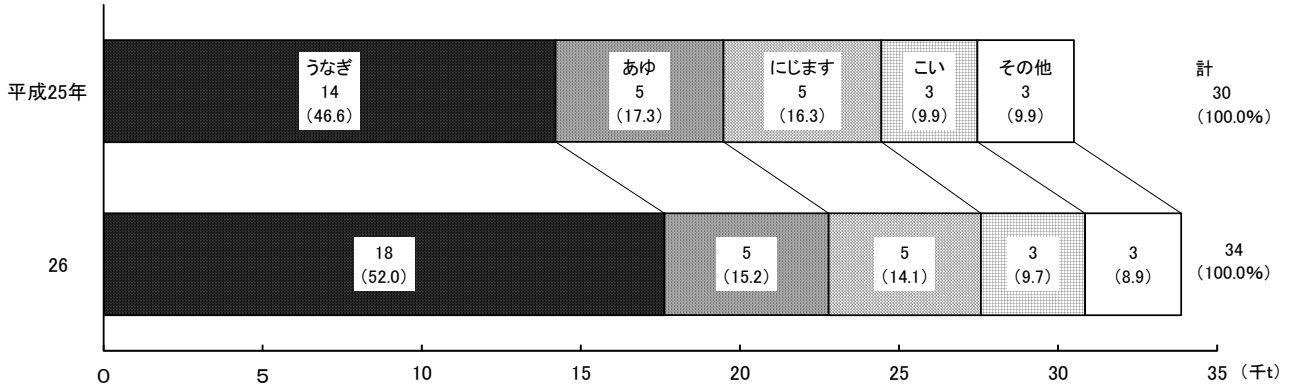


図 12 内水面養殖業主要魚種別収獲量の推移

